



## 劇団文化座「母」 JR東労組貸切で上演！



5月8日、六本木・俳優座劇場において、劇団文化座のJR東労組貸切公演が行われました。

劇団文化座代表である佐々木愛さんの「女優生活60年」と銘打ったこの興行の演目は「母」であった。原作は三浦綾子さんの同名小説。主演の佐々木愛さんが演じるのは小林キセ、プロレタリア作家・小林多喜二の母。

昭和8年（1933年）2月20日、多喜二は治安維持法違反で特高警察に検挙され、築地警察署に収監中「獄死」する。これは戦前の、明治憲法下の、90年前の出来事と片付ける訳にはいかない。公安警察による「えん罪・浦和電車区事件」で、美世志会は344日間に長期に渡り不当勾留された。出入国在留管理局による「ウィシユマさん死亡事件」はつい最近のことだ。戦後「民主主義」の時代にもこうしたことが生起している。

多喜二の遺体には拷問の跡が残っていた。母セキは多喜二に寄り添い「ほれっ！多喜二！もう一度立って見せねか！みんなのためにもう一度立って見せねか！」と呼びかける。佐々木愛さんの鬼気迫る、円熟の演技が涙を誘いました。

劇団文化座は創立80周年を迎えた。「えん罪・浦和電車区事件」への支援を頂くなど、交誼を重ねてきた。上演後の舞台挨拶で、佐々木愛さんはウクライナの戦禍を憂い、こうした時代だからこそ「お互いに学び合ってください」と語りかけました。

デジタル化で便利になった反面、感性がカサカサしていませんか？心の琴線に触れる何かを欲している方に、劇団文化座「母」の鑑賞をお勧めします。  
東京地本は劇団文化座の公演を随時紹介します。奮っての参加をお願いします。  
次回公演は「旅立つ家族」です。